

英国・タイン川のリバー・クルーズに乗船して

白井 譲

今月(7月)に鳥鑑賞と宮殿見学にベルリン・リスボン・エディンバラを訪問した。エディンバラでは、1日空きが出来たのを機に、予定外の200km離れた(高速電車にて1時間30分)ニューキャッスルに行ってきた。筆者の趣味関連の美術館・宮殿・動物園などは無く、市内を大きな川(タイン川)が流れており、川のほとりを散歩していると、リバー・クルーズのRIVER ESCAPES社の乗船場所を見つける。30分後の12時発、3時間クルーズ「QUAY TO SEA」に申し込もうとすると、予約リストをみて名前を聞かれたが、予約をしていないことを告げたが、あっさりチケットを購入する事が出来た。料金は、シニアで12ポンド。乗客は満員である。

出航時に近くの「ミレニアム・ブリッジ」(船を通す為に横方向に傾き歩道が上下するタイプの橋、筆者は始めて見る)が可動する。そこを通りクルーズ開始となる。40分程静かな景色の中を進むと、造船所が見えて来る。社名はA&Pと書いてある。1隻RO-RO貨物船が入渠していた。船首に「PAULINE」となっていたので船会社名と思っていたが、帰国後調べたら船名のような。大きく感じなかったが、2006年建造の49,166GTの船だ。そこから20分程進むと、港が見えてきた。右側に貨物船が3隻停泊しており、その内2隻が商船三井系と思われる自動車運搬船「PEGASUS ACE」と「NORDIC ACE」である。左側のフェリー・ターミナルにデンマーク籍DFDS社フェリー「PRINCESS SEAWAYS」(31,356GT、ex PETER PAN 1986就航 1980年代後半ドイツの船会社が発注した4隻のうち1隻)が停泊。船体塗装が濃紺から黒に変更されていたが、以前の方が好きだ。その先がクルーズターミナルになっているが、クルーズ船は停泊していない。何故だが看板の表示は、「ようこそニューキャッスル港」でなく「ようこそタイン港」になっていた。少し進むと左に城が、右に砂丘が見えて来る。前方には、河口の出口で赤と白の灯台があり、灯台近くに到着する頃には、時間の針が13時30分を指していた。そこでガイドが終わると、デッキで見学していた大半の乗客が、ぞろぞろと船内に移動する。船は反転して出発口へ戻る。楽しめた3時間のリバー・クルーズであった。

エディンバラの英王室ヨットであった「ブリタニア」号についてだが、以前エディンバラ訪問した時は、まだ稼働中であった。保存船になったニュースを聞いた時は、次回エディンバラを訪問する時は、必ず見学したいと思っていたので今回見学に行くことにした。尚、オーシャン・ターミナルに日本でも馴染みの「AZAMARA JOURNEY」(30,277GT ex R Six)とクルーズ帆船「SEA CLOUD II」(3,849GT 2000年就航)の2隻が停泊していた。

タイン川クルーズ



リバー・クルーズ船「Fortuna」



船上から可動前のミレニアム・ブリッジ



可動後のミレニアム・ブリッジ、向こう側に傾いている。



造船所に入渠する RO-RO 貨物船「Pauline」



自動車運搬船「Pegasus Ace」と「Nordic Ace」



ニューキャッスルとオランダ・Ijmuiden 航路のフェリー「Princess Seaways」

エディンバラ港



「ブリタニア」号船上から「Azamara Journey」
(左)と「Sea Cloud II」(右)



クルーズ帆船「Sea Cloud II」